

自閉症、重度の言語能力遅滞、ADHD 8歳・男児のケース

～日本における梅毒マヤズム（破壊的傾向）の歴史的考察～

由井寅子

◆FHMA [英国ホメオパシー医学協会名誉会員]

◆MJPHMA, MHMA, MARH

[認定ホメオパス (日本ホメオパシー医学協会, 英国ホメオパシー医学協会, 英国認定ホメオパス連合)]

◆Hon.Dr.Hom [ホメオパシー名誉博士 (Pioneer University)]

◆Ph.D.Hom [ホメオパシー博士 (International Medical University)]

◆D.C.Hom [クリニカルホメオパス]

◆JPHF (日本ホメオパシー財団) 理事長

◆JPHMA (日本ホメオパシー医学協会) 会長

◆RAH (ロイヤル・アカデミー・オブ・ホメオパシー) 学長

多くの難病は梅毒マヤズムによると言われているが、梅毒マヤズムという定義は、ハーネマンはしていない。ハーネマンは、マヤズムは感染体と言っているのであり、子供がセックスしていないのに梅毒に罹る由もなく、梅毒マヤズムではなく、正しくは梅毒傾向である。ハーネマンの時代のドイツではまだ、遺伝という言葉は無く、遺伝マヤズムとも呼べない。子供の梅毒傾向はどこから来たのかという事をわからねばならない。

梅毒傾向は、梅毒に罹った先祖が梅毒を薬で抑圧し、血中にそのまま感染体が残ったままの血液、また老廃物が溜まったままの血液で親が子供を作る時に、そこから生まれた子供は、梅毒傾向の土壌を持って生まれるのである。

日本人は、江戸時代に(360年以上前)蘭学の医者が来て驚いたほど、梅毒が一般人まで浸透していたのである。それは、遊郭という、公認で男性が女性を買う事ができるという歴史が長かったからである。文献によれば、日本に初めて梅毒が現われたのは 1512 年だが、戦国時代以来、500年に渡り国を統一するため戦い続けた珍しい国なのである。

また日本人は、特に侍は、恥を受けるぐらいなら、腹を切り、自害したのである。

ちなみに今現在でも日本は欧米先進諸国と比較し世界1の自殺率となっている。

近年では、第2次世界大戦中も18-20歳の男子で形成された特攻隊は戦闘機に乗ったまま敵に体当たりする人間爆弾となり、若者が次々と死んだ。生きて帰ったものを徹底して日本の恥とばかり世間がいじめたのである。終戦間近になって、もう戦う人間も残っていない状態で広島と長崎に原爆が落とされ、この原爆で、累計約38万人もの多くの国民が死んだ。さらに原爆による放射線の被害、特にその後遺症や白血病は親子3代に及ぶ、計り知れない後遺症となった。日本人はこの戦争によって、パールハーバーを襲い、第2次世界大戦を引き起こす引き金を引いた張本人である、という加害者のレッテルを貼られた。故に、日本人の心身は、深い罪の意識に蝕ばまれたのである。パールハーバーで死んだのは2000名ほどの兵士。日本人がこの戦争で死んだのは、一般人、兵士も入れ、310万人にのぼった。これこそ梅毒傾向である。また、日本における全盲・全聾啞者の数は、世界のその他の地域から比べると非常に高いと言われている。昔から根付いている日本人の恥の意識や、現在、塵ひとつ無い駅のホームなどの完璧な衛生感や美意識は、何代にも渡って梅

毒が血中にある事によって起きたといっても過言ではない。

先祖代々、梅毒の歴史を持つ子孫は、梅毒傾向が私たちの体の構造に現われ、多くの日本人がO脚であり、年をとると歯が一本もなくなり腰が著しく曲がる骨の病気を持つのである(骨軟化症)。

滅び行く人種は滅びる前に非常に頭が良くなるそうだが、日本の技術は世界に誇るものである。

もう1つ梅毒傾向を日本人に見るのは、1994年に予防接種が任意になったものの、わからず、予防接種をする率を90%近く維持している事である。こうして日本が滅びないためにも、Syphilinum (梅毒ノゾース)は私たち日本人にとって、とても大事なレメディィーとなる。

今日多くの梅毒傾向を持つ子供達が、予防接種の毒を血中に入れることで、梅毒傾向にスイッチが入り、脳神経の部分的破壊が起こっている。それがために、自閉、他動、アスペルガーに苦しんでいるのである。

次のケースを分析すると、至る所に梅毒傾向があるのがわかる。

症例 自閉症、重度の言語能力遅滞、注意欠陥・多動性障害 (ADHD) (8歳・男児)

赤下線部: Syphilitic DispositionとSyphilitic Dispositionを誘引するきっかけ

■特徴

てんかん。ずっと動いていて、目で見ただけはすぐに触りたがる。「あ」とか「い」とかしか言えず、全く会話にならない。ほかの子どもと全然遊べない。生まれたとき、鼻の頭に大きな穴が開いていた。舌が短いが、それなのに舌が突き出ている。心臓に穴があると言われたが、1カ月検診では大丈夫だった。歩かず走る。マスターベーションをする。ずっと手を激しく動かし続け、ゲームをする。

■母親の妊娠中の行動と状況

- ・歯に詰め物をした
- ・貧血のため鉄剤を服用した
- ・張り止め薬を服用した
- ・妊娠中毒症のため陣痛促進剤を使用した

見知らぬ地に嫁に行き頼れる人が誰もおらず、初めての子どもで不安だった。

妊娠5カ月のときにコンサートへ行き出血したが、何とか止まった。

出産は予定日より1週間早かっただけに、2150gと小さかった。

所見:母=アドレナリン型。誰からも助けがなく不安、心配性。鼻炎で全く鼻から息が吸えず、臭いもわからず。

父=この子が自閉症とわからず、言う事を聞かないとこの子を叩いたり、殴ったりして押さえつけている。怒りっぽく突然切れる。

■出生後の状況と予防接種歴

- ・生まれたとき、鼻の頭に大きな穴が開いていた
- ・1週間、保育器に入る

- ・ 3 日目 黄疸になり、紫外線療法を受ける
- ・ 多血症と診断されて、ブドウ糖を手足に点滴される
- ・ 3 カ月まで粉ミルク（あまり飲まない）
- ・ 4 カ月 BCG 接種
- ・ 6 カ月 発熱→下痢、耳垂れ、吐き下しで脱水症状 →入院（点滴 3 日間）
ポリオ接種。1 m 下のコンクリートに顔から落ちたことがある
- ・ 1 歳 腸炎で吐き下し→1 週間入院。
ポリオ接種。よく動き回る
- ・ 1 歳 2 カ月 麻疹接種 その後、熱。
- ・ 1 歳半 中耳炎、突発疹→ステロイド剤と亜鉛華軟膏塗布
- ・ 1 歳半 DPT のあとに目が合わなくなる
- ・ 1 歳半～2 歳 中耳炎を繰り返して、そのつど鼓膜切開。 麻酔
- ・ 2 歳 妹の誕生、少し出ていた言葉が消える、歩き出し、耳炎、多動になる
- ・ 2 歳 2～4 カ月 DPT（3 回）接種→腕から肩まで腫れる
- ・ 2 歳 6 カ月 水疱瘡接種
- ・ 2 歳 8 カ月 おたふくかぜ接種
- ・ 3 歳 自閉症・注意欠陥多動性障害と診断される。性器を触る
インフルエンザにかかり 3 日間の高熱 → 解熱剤。
- ・ 3 歳 2 カ月 DPT 接種
- ・ 3 歳 7 カ月 日本脳炎（2 回）接種
- ・ 3 歳 11 カ月 インフルエンザ（2 回）接種
- ・ 4 歳 手足口病を薬で抑圧、このころから口内炎
- ・ 4 歳 9 カ月 あごの下を打って 2 針縫う、麻酔
- ・ 5 歳 太腿を犬にかまれる
- ・ 6 歳 脳を発達させるために頭蓋骨を広げる手術（全身麻酔） + 頭蓋骨にボルト
を入れる手術、そのあとにボルトを除去する手術（全身麻酔）をする
- ・ 7 歳 同じ歳の子とコミュニケーションがとれない

所見：予防接種 15 回、2 回の頭部の大手術、麻酔 5 回、軟膏での症状の抑圧などがある。

この子に抗梅毒傾向であるレメディー、Bufo、Arn.、Lyssin、日本で行なわれている 8 種のワクチンのコンビネーションレメディーを与えると、蓋がとれ、自我意識が出て、自分の意思を表すようになる。自分の思い通りにならないと怒って叩く、そして、人を噛んだり、酷い時は、包丁を向ける。父自身が怒りっぽく、2 人の喧嘩がエスカレートして、このまま行けば、家庭内が崩壊する、と連絡が入る。

由井の所見：大人しく、自分を出せずにいた多くの自閉症の子供は医原病は心の抑圧などが取れる過程で、必ず一時期、多動や暴力的になったりすることが多かった。それでも治癒の方向性である。しかし、家庭崩壊にならないためにも、迅速に効果を持たせるために、Syphilinum 200C + Alumina 200C + Merc-sol. 200C をコンビで出す。

これらは、抗梅毒傾向レメディーである。

これらのレメディーを水に入れ、スプレーを作っておき、暴れる時に、スプレーするように指示した。こういう時は、単体のレメディーで処方せず、コンビニして与える事で大事に至らない。

次の相談会では、

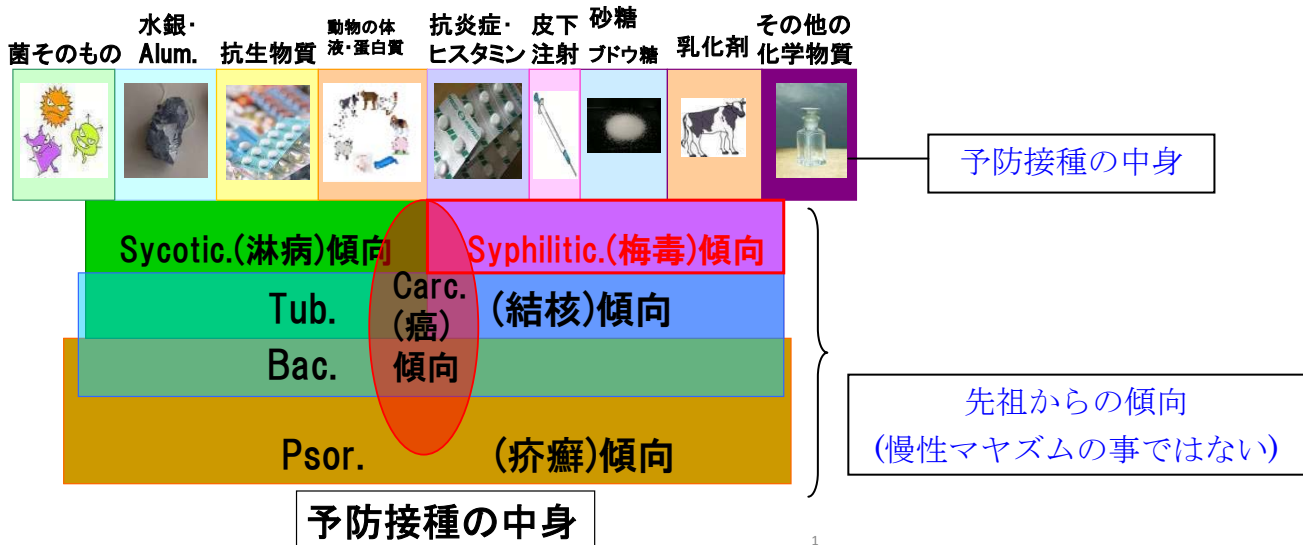
胸や腹にじんましんが出る（3日間）。水虫が足に広がる（これは大変よいこと）。コミュニケーションがとれるようになる。癩癩が無くなった。穏やかになり、やさしくなった。犬をかわいがる。私に自分の犬の名前を言い、携帯からその犬の写真を私にみせる。私が「かわいい」と言うにつこり笑った。感情がどんどん出てきている。手術した頭部の凹みが減った。父親のこの子への理解がなく、よく怒られることが母としてはかわいそうに思う。視線もしっかりしてきた。

所見：足の水虫が一杯出ている。体内にあるカビが外に出てきたのである。

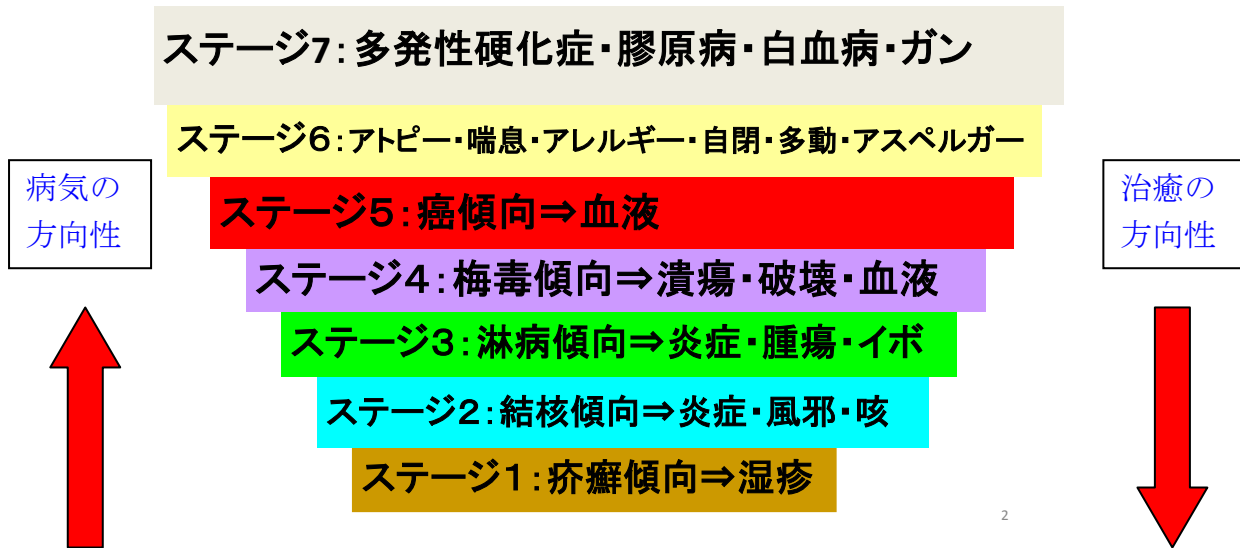
水虫やカビは、免疫が低下した事による病気であるので、免疫を上げるしか方法はない。それにも Syphilinum がとても良いのである。またカビのような免疫低下の皮膚病には Syphilinum が良く、Psorinum も介入として入れるべきである。これらのレメディーは、免疫が下がった難病の時にはもっと頻繁に使われるべきである。

ケース解説 マヤズム解説（予防接種は梅毒傾向を立ち上げる）

■ ケース解説



症状を抑圧し続けてガンのステージへ
 予防接種は一足飛びに梅毒ステージへ



慢性梅毒 Miasm (マヤズム) を持つ先祖の方々がかかって治りきらないまま子供を産むと子供は梅毒にかかるのではなく、梅毒傾向になり、奇形を発症する。
 または、人生のどこかで難病や大事故、大事件を起こすようになる。
 慢性梅毒 Miasm (マヤズム) を抑圧する事で、疥癬マヤズムとくっつき、悪性 奇形 脳神経に悪さをする 歯 骨の問題を起こし、いたるところで破壊傾向が起こる。

子供を産む前にこの Syphilis (梅毒) 傾向は徹底してホメオパシー治療すべきである。

その場合、疥癬傾向治療と共に、Syphilis 傾向を治療しなければならない。そうすることで、血中毒を綺麗にし、血中から異物を取り去る事ができ、遺伝をまぬがれる。
 これにプラスして Carcinodin もよい。Carcinodin は、特に血中の異物に合うものである。
 大切なことは出てきた症状(病気)を止めるのではなく、熱を出したり、下痢・発疹を出したりして、老廃物を出し切ることである。このことは、ハーネマンはあまり明記していないが、バイタル・フォースは、症状を出して、ホメオパスを求めるだけでなく、症状を出して、老廃物を外に出しているのである。熱はありがたい！ 咳はありがたい！ 症状はありがたい。

参考文献：

- 「慢性病論」 サミュエル・ハーネマン
- 「オーガノン第6版」 サミュエル・ハーネマン
- 「発達障害へのホメオパシー的アプローチ」 由井寅子
- 「予防接種トシデモ論」 由井寅子
- 「日本疾病史」 富士川游
- 「骨から見た日本人」 鈴木隆雄